

第25回 松山市民文化祭・芸術祭メイン公演

第10回

全日本演劇 フェスティバル IN松山

2006/8/25(金)→8/27(日)

会場:松山市民会館

公演スケジュール

8月25日(金)

17:00～ 開会式
オープニング 舞土芸術 伊予万歳 大ホール

17:30～ **あましろくたのめになる文化祭**
上方芸能代表
木津川計「記念講演」 大ホール

19:15～ 地元松山演劇人による
「坊っちゃん」 大ホール

8月26日(土)

9:30～ 劇団やませ(青年)
「十三夜」 中ホール

13:00～ 福岡現代劇場(石見)
「信太妻」 小ホール

14:45～ 劇団未来(大分)
「ダモイ」 中ホール

16:45～ 福岡現代劇場(石見)
「信太妻」(演劇) 小ホール

18:00～ 演劇集団乱歌山(平歌山)
「疾風世話人力車」(新作) 大ホール

20:00～ 劇団DO・MO(山口・香川)
「悪夢」 中ホール

8月27日(日)

12:30～ 劇団はくるま(山口)
「夜空の下に降る花は」 中ホール

全演劇とも公演、入場を制限する場合があります。

全国各地で優れた活動を続ける
劇団が競演する感動の舞台
松山からは地元の演劇人が集い、
松山人なら一度は見ておきたい
正統派「坊っちゃん」をお届けします



■主催 松山市文化協会 全日本リアリズム演劇会議 ■共催 松山市 松山市教育委員会 松山市民館連絡協議会
■後援 文化庁 愛媛新聞社 NHK松山放送局 南海放送 テレビ愛媛 あいテレビ 愛媛朝日テレビ 愛媛CATV FM愛媛 スミのリビング新聞社



ごあいさつ

松山市文化協会会長 今井 琉璃男

朝夕には秋の気配も漂う時節、第25回松山市民文化祭芸術祭メイン公演を開催できますことは、喜ばしい限りでございます。

本年は、地域で活躍するアマチュア演劇人の発表の場として歴史を重ねております「全日本演劇フェスティバル」の記念すべき第10回大会をメイン公演としてお招きし、市民の皆様に演劇の醍醐味を御高覧いただくことといたしました。日本各地からの5つの劇団に地元松山の演劇を加え、さらに、遠来の韓国・春川からの劇団が花を添え、合計7つの劇団が3日間に渡って迫真の演技を披露いたします。各劇団の特色を生かした熱演は、演劇ファンならずとも一見の価値のある企画と自負するところでございます。

また、本年は、文豪夏目漱石の国民的小説「坊っちゃん」発表百年の、記念すべき年であります。この機会に、地元の演劇界の有志がこぞって準備を進め、「坊っちゃん」を上演する運びとなりました。市民の皆さんとともに「文学のまち 松山」を全国にアピールしたいと存じます。

終わりに、本公演の開催に当たりまして、多大の御尽力をいただいた皆様に深甚なる謝意を表しますとともに、松山市文化協会への今後ますますの御協力をお願い申し上げ、ごあいさつといたします。



ごあいさつ

松山市長 中村 時広

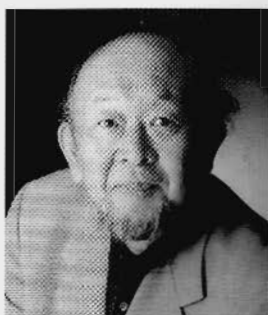
第25回松山市民文化祭芸術祭のメイン公演として、「第10回全日本演劇フェスティバル」が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

北は青森から南は福岡まで、全国5つの劇団の皆様、また、国際色豊かに韓国・春川から御出演いただきます劇団「DOMO」の皆様、松山へようこそいらっしゃいました。松山市民を代表して皆様を歓迎いたしますとともに、演劇への情熱に裏打ちされた皆様の迫真の演技を心待ちにしているところでございます。

また、松山を舞台にした夏目漱石の小説「坊っちゃん」発表百年を記念し、地元松山の演劇界有志が集結して、「坊っちゃん」を上演されるとのことであり、地元演劇界の活性化に向け、大きな期待を寄せているところでございます。

松山市では、市民の皆さんの参画をいただく中で、文化の香りの高いまちづくりを推進しておりますが、この演劇フェスティバルを通して、市民の皆さんが良質の演劇に触れ、情操を高めていただくことは、明日への活力につながり、ひいては市民文化の高揚に結びつくものと期待してやみません。

終わりに、この演劇フェスティバルの開催に御尽力いただきました松山市文化協会メイン公演実行委員会の皆様をはじめ、関係各位に心から感謝申し上げます、ごあいさつといたします。



第10回全日本演劇 フェスティバル開催にあたって

全日本リアリズム演劇会議議長 藤 沢 薫

3年ごとに開催されて来たこのフェスティバルは、1982年日本列島の中央部にある岐阜市を皮切りに、全国各地をめぐってきました。

今回はちょうど10回目を迎えます。その節目の年に、奇しくも正岡子規の故郷であり、日本演劇の先達を生んだ文化のまち松山で開催されることは、実に意義深いことでもあります。

残念ながらわが国は、21世紀を迎えても世界でも稀に見る文化の中央集権国家と言わざるを得ません。日本中から輩出される優れた才能は、名をあげんと全て東京に集中しゆるぎない権威を築きあげています。中央と地方の格差は歴然です。

この現状を憂い、各地に華開いてこそ文化だと「地域に根ざす演劇」を標榜して活動を続けてまいりました。それぞれの地域の劇団の多くは数十年の歴史をもち既に地域でなくてはならない存在となっております。

今回参加する劇団も地域が生み出したユニークな作品ばかりです。そしてまた今回は、松山の皆さんが「坊っちゃん」の上演で華をそえていただき、韓国・春川のDOMOの上演も実現したことはこの上ない喜びです。どうかお楽しみ下さい。

この開催にご尽力賜りました松山市文化協会の皆様に厚くお礼申し上げます。

郷土芸能 伊予万歳

出演：伊予万歳別府双葉会



伊予万歳は、松山市に伝わる民俗芸能で、松山市の無形文化財に指定されています。その起源は古く、江戸時代初期にまでさかのぼると言われ、正月行事に演じられていました。

歌・三味線・太鼓・拍子木の伴奏で、扇を持った踊り子がぎやかに踊ります。代表的な演目に、扇を多数使って老松を表す「松づくし」などがあります。

伊予万歳別府双葉会の皆さんは、伊予万歳の保存・継承・普及啓発に努められ、各種イベントのオープニングに多数出演されており、平成16年3月には皇居での天皇陛下の古希奉祝行事に出演、また去年は全国地域伝統芸能まつりにも出演されるなど、多方面で活躍されています。

記念講演

「趣味と人生－文化を我等に－」

雑誌「上方芸能」代表 木津川 計 氏

8月25日(金)

17:30～

松山市民会館 大ホール



1935年生まれ。大阪市立大学文学部卒。

1968年、雑誌「上方芸能」を創刊、以来、1999年3月まで編集長を務める。

1986年、立命館大学産業社会学部教授。2001年、立命館大学産業社会学部特別任用教授。2006年、立命館大学を定年退職。

民放連盟賞中央審査委員会審査委員長(2004、5年度エンターテインメント部門)、文化庁芸術祭賞選考委員、芸術選奨文部科学大臣賞選考委員会主査ほかを経て、現在は、文化庁国際芸術交流支援事業審査委員、兵庫県川西市生涯学習短期大学学長ほか。

NHKラジオ「木津川計のラジオエッセイ」レギュラー

主な著書に、「文化の街へ」、「上方の笑い」、「〈趣味〉の社会学」、「上方芸能と文化」ほか多数。

京都市芸術功労賞受賞、京都新聞文化賞受賞、第46回菊池寛賞受賞(1998年12月)

地元松山演劇人による

坊っちゃん

8月25日(金)
19:15

松山市民会館 大ホール



スタッフ

演出 寺岡 信子
演出補佐 青木 和代
舞台監督 浜口 慶夫
装置 藤本 文夫・井原 正樹
小道具・衣装 村上 幸代・本田 裕子
清水 歩・大野 希
照明 松山市民会館照明部
効果 松山市民会館効果部
衣装・デザイン製作
松山女学院専門学校在校生
メイクアップ 城戸しのぶ・大西 智子
来島 明美

キャスト

校長(狸)	大下 俊市
教頭(赤シャツ)	渡部 和也
数学主任(山嵐)	伊藤 慎介
画学教師(野だいこ)	和泉元 守
英語教師(うらなり)	忽那 佳和
漢学教師(斉藤 玄信)	鎌田 忠雄
体操教師(桐島 国夫)	寺谷純一郎
博物教師(長内)	松尾 和正
数学教師(坊っちゃん)	赤瀬 允章
小使い(ラッパのおんじ)	丹原 謹司
船頭	桑原 雄大
萩野家の婆(アキ)	宮中 知美
清	武政 美佳
清(声)	青木 和代
生徒(前田河)	藤原 力
//(桧垣)	松本 優太
//(柳川)	渡部 龍一
//(猪股)	石井 卓也
//(滝口)	東 駿

資料提供

愛媛県立松山東高等学校・松山子規会・松山市立子規記念博物館・愛媛新聞社

製作

松山市民文化祭芸術祭メイン公演実行委員会

【あらすじ】

明治37年、松山中学校に赴任した新任の数学教師、夏川圭三、つまり「坊っちゃん」は生粋の江戸っ子である。生来曲がったことの嫌いな「坊っちゃん」が遭遇する数々の事件。一校長の「狸」、教頭の「赤シャツ」、同僚の「山嵐」、「野だいこ」、「うらなり」たちと織りなす、ユーモラスなドラマが展開されていく。

【使用楽曲】

○お江戸日本橋	タンポポ児童合唱団	○庭の千草	鮫島有美子
○春爛漫の花の色(旧制一高西寮々歌)	ボニージャックス	○美しき天然	案山子
○われは海の子	木村 俊光(ソロ)	○伊予の湯(伊予古謡)	大成 研三 (済美高校教諭)
○故郷の空	東京混声合唱団	○箱根八里	東京混声合唱団
	鮫島有美子		

劇団やませ(青森)

一人芝居 十三夜

8月26日(土)

9:30

松山市民会館 中ホール



キャスト

テフ子 大館登美子

(男の声 山日 達朗)

(親方の声 関 通)

(女の声 佐々木彩乃)

(あさみの声 長根 織恵)

(隆の声 田中 瑞穂)

(リサの声 工藤 沙織)

スタッフ

作 森田 啓子

衣裳 大館登美子

補作・演出 栗谷川 洋

舞台監督 高橋理恵子

美術 栗谷川 洋

大道具 佐々木 功

照明 市川 博之

制作 関 通

音響効果 佐々木 功

【あらすじ】

舞台は青森県の八戸。裏長屋の縁側で老いた女がひとり、ほろ酔い気分で己が生い立ちを語り始める。幼い日の父母の記憶、故郷を出、都会で暮らした日々…。踊るも惚れるも命懸けであんすがらなす…。なまめく光の中で彼女が求めつづけた夢とは。

福岡現代劇場(福岡)

信太妻

8月26日(土)

13:00・16:45

松山市民会館 小ホール



キャスト

筑前琵琶 中村 旭園

演出 猿渡 公一

女 今泉亜希子

舞台監督 大野 耕治

書 吉野 忠記

スタッフ

【あらすじ】

信太妻は中世の説経節、古浄瑠璃の流れを引き、歌舞伎では「嵐屋道満大内鑑(あしやどうまんおおうちかがみ)」として上演され、ごぜ唄、サーカスの足芸として日本の民衆に愛されてきた物語である。

安倍保名は、信太の森で出会った葛の葉姫と契りを結び、阿倍野の里に隠棲する。やがて二人の間に童子が生まれ、平穏な日々が続いた。この童子こそ、陰陽師として有名なあの安倍晴明であった。

ところが葛の葉姫は実は人間ではなく、保名に命を助けられた千年も年経た白狐で、その本性の姿を童子に見られてしまった。葛の葉は畜生三界の定めに従い、子別れの場となる。狐に限らず動物や植物の精霊が人〜多く女性〜の姿に変化して現れ、人間と交わって子をなすと語る説話、いわゆる異類婚姻譚は「夕鶴」の鶴女房、蛇女房の民話が特に有名だが、この葛の葉もその代表作の一つである。

劇団未来 (大阪)

ダモイ

8月26日(土)

14:45

松山市民会館 中ホール



【あらすじ】

敗戦から12年目に届いた遺書。第二次世界大戦後、シベリアの強制収容所に拘留され、重労働のなかで亡くなったその男の遺書は、彼を慕う仲間たちの驚くべき方法により、文書を持ち出せないという、ソ連の監視網をかいくぐったものであった。

キャスト



波田久夫
山本 暁男



平尾光秋
野上 貞信



牧達郎
新野 伊吉

スタッフ

演出
演出助手

ふたくちよし
森本 景文
和田 澄子
則清 泰男
近江 博子
金沢百合子
板坂 晋治
染川 充成
西尾 臣示
東條 利秀
前田都貴子
則清 泰男
草深 美苗
中面 慶子
久能 淑子

舞台美術
照明

音効

小道具

衣装

映像監督
美術監督
舞台監督
舞台助手

舞台美術助手

制作

協力

肉山 恵美
島内 弘道
岩田 芳重
藤岡 英幸
野尾 雅生
前田 示夫
渡辺 舞
馬場 富枝
三吉 和枝
和田 美子
谷和 澄子
劇団 怜子
息吹

演劇集団和歌山 (和歌山)

疾風世話人力車(新作)

8月26日(土)

18:00

松山市民会館 大ホール



※前作「風吹にひびく唄」より

【あらすじ】

時は大正時代、ここ和歌山市に、社会から見放された初老の男女がいた。二人は偶然出会い、一緒に死のうとすがるが、不思議なことに、人力車に自殺を思いとどまらされる。二人は心が通じ合い、意気投合、自分たちを救ってくれた人力車で人助けをすることに。そして、人を助けるたびに、二人は若返り、生き生きとし出すのだった。信仰に悩む救世軍もからみ、やがて、人力車を引く二人は、米騒動という歴史的大事件に巻き込まれていく…。

キャスト

風神伴次郎 (人力車夫)
お滝 (元娼婦)
浦上芳枝 (自由軒の女将)
三好志摩子
上岡隆三 (救世軍隊長)
野々山千秋 (救世軍兵士)
救世軍兵士1
救世軍兵士2
佐野大介 (工員)
富山弥一郎 (実業家)
お京 (富山の愛人)
菊蔵 (やくざ)
虎三郎 (やくざ)
和歌山警察署長
女1
女2
富山米穀店の店員 (声)
浮浪者

スタッフ

作・演出
装置
照明
衣装
音響
舞台監督
制作

楠本 幸男
楠本 幸男
城向 昌宏
山本 宏子
植田 真司
鎌田 幸男
下崎 昌信

演出協力
装置制作
小道具
メイク
音楽

植西 一義 水口 広平

植西 一義
城原 博子
田原 美栄
吉井 垂弥
佐古 雅哉
山下 悠生
上中 敏史
水口 敏一
野口 広平
城野 周子
北本 裕子
岡田 望也
得津 一也
得津 一也
尾津 裕美
濱口 督生
山入 吾望
岡田 桂

山入 桂吾
演劇集団和歌山
城野 周三
尾津 裕美
山下 悠生

劇団DOMO (韓国・春川)

悪夢

8月26日(土)

20:00

松山市民会館 中ホール



キャスト

Won You-Sun
Lim Soon-Hee
Hwang Woon-Yong
Min Kyung
Kim Ae-Ran
Kim Sang-Na
Lee Sang Soo

スタッフ

演出 Hwang Woon-Ki
技術総監督/音楽 Jang Tae-Jun
舞台製作/舞台監督 Park Chang-Gyun
照明デザイナー Kang Sang-Min
進行 Park Jung-Hyun

【あらすじ】

スクルジは、チャールズ・ディケンズの原作「クリスマスキャロル」に出る主人公で、クリスマスイブに過去・現在・未来の幽霊を通じて葛藤と反転で進行される演劇である。
スクルジはどうしてひどいけちん坊になったんだろうか？ という質問からこの演劇は始まる。
先に過去に行くと、貧しいが夢の多い幼年時代のスクルジが童話に出る主人公を夢見ながら育つ。彼の初恋の相手スカーレットとの出会いは初雪の喜びくらい美しいことだったが、もったことがないスクルジにはすぐにとけてしまふ惜しい雪になってしまった。お金！お金さえあれば…
現在のボブ。ボブはスクルジの商会で働く店員だ。ボブの息子チームは手術をすればこそ生きることができる病がある。でも心だけはスクルジより余裕のあるように暮らそうとする。それでもボブが切実に必要なものはお金、お金だ。未来のクリスマス前日、マリルがそうだったしスクルジがそうだったようにボブがお金を用意するために意志と関係なく殺害を選ぶ。自分自身が死ぬ姿と物のためにお互いにお互いを殺す世の中を見たスクルジは絶叫する。
しかし、最後まで待っているどんでん返し！
世の中には悪循環になるものなどがたくさんある。悪循環の中心に私がいる。私は現在だ。今、悪夢から覚めるために現在を生きる人が世の中の非理と矛盾を止めると、私たちの未来には幸せがあるはずだ。

劇団はぐるま (岐阜)

夜空の下に降る花は

8月27日(日)

12:30

松山市民会館 中ホール



キャスト

ユキオ・アジアの少年 (ぼく) 糸永しのぶ
ヤスヒサ (おとうさん) 渡辺 伸二
ヨネ (おばあちゃん) 日比野 圭
ミツ (おかあさん) 松久 美保
ケイコ (おねえちゃん) 関谷 真希
コウちゃん (近所のお兄ちゃん) 木方 篤志
ケイスケおじさん 船渡 治郎
カツタ (ヤスヒサの上官) 浅井 栄富

スタッフ

演出 小道具 山田 達哉
美照 舞台監督 内田 薫
衣 舞台監督助手 辻 あい
効 果 井上 里美
道具制作 近藤 友美
田中みずす
後藤 昇
いすみ 凜
汲田 正子
板坂 晋治
清水 弘八
江口 由香
馬淵みどり
田辺 果林
保 多 留
古宇田 玲
種田 正義
田路 栄一
モリサチコ

【あらすじ】

弟のヒサシが生まれ、おねえちゃんとおぼく(ユキオ)は幸せです。でも食糧不足でおかあちゃんはおっばいが出ません。戦地の息子を「軍隊には向いとらんよ。」と心配するおばあちゃん。近所のコウちゃんは学徒動員で飛行機工場に行っています。
家財道具を疎開させてもらうケイスケおじさんの庭でユキオがホタルを見た夜、父親のヤスヒサは、ホタル舞う戦場で若い上官のカツタと…

【岐阜空襲】

昭和20年7月9日深夜から翌未明にかけて、米軍爆撃機B29の編隊が岐阜市上空に飛来し、中心部に焼夷弾(しよういだん…家などを燃え上がらせるためにゼリー状の油脂を詰めた爆弾)を約1万5千発投下した。
この空襲は大型爆弾による軍事施設や工場施設を対象とした攻撃ではなく、一般市民を対象とした夜間無差別焼夷弾攻撃であり、一夜にして建物密集地の74%を焼き、約900人が亡くなった。現在でも岐阜市街のあちこちで空襲の爪痕を見ることができる。